

09年度	交流文化概論 i	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 21世紀は大交流時代と云われ、人も文化も国境を超え頻繁に行き交います。人と文化の交流現象をツーリズムとして捉え、ツーリズムの基本的、基礎的な知識を習得する。又、ツーリズム関連科目への入門編として、ツーリズムが人間の本質的、本能的な欲求と深く関連し、又、文化的のみならず政治的、経済的に社会と深く関わっていることを理解する。併せて、これらの学習を通して、ツーリズム関連科目を学ぶ重要性を認識し、その学習方法を理解する。</p> <p>講義概要 旅や観光に関する英語、日本語の語源に触れながら、旅と観光の持つ意義や役割を考え、併せて、今日のマスツーリズムに至るまでの旅と観光の歩みを学習する。ツーリズムは非常に裾野の広い分野に亘るので、観光政策、各種観光関連産業、文化現象等々の基礎的な知識や、学習方法を習得する。又、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々、観光関連報道記事を適宜取り上げ学習の参考にした。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. ツーリズムとは・①観光の語源・観光の意義と役割 3. ツーリズムとは・②ツーリズムの語源 4. 旅と観光の歩み・①旅の発生・巡礼の時代 5. 旅と観光の歩み・②グランドツアーとトーマス・クックの時代 6. 旅と観光の歩み・③マスツーリズムの時代 7. ツーリズムの各分野・観光政策・観光立国とは 8. ツーリズムの各分野・産業・①航空業 9. ツーリズムの各分野・産業・②宿泊業 10. ツーリズムの各分野・産業・③旅行業 11. ツーリズムと文化 12. ツーリズムと文化 13. 新しいツーリズム 14. 新しいツーリズム・講義のまとめ1 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に評価する。	

09年度	交流文化概論 ii	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年生の必修科目で、2年生の必修科目「トランスナショナル文化論」につながるものです。私たちは文化が、国や地域、民族や言語に固有のもので、伝統的な同質性を持つものと考えがちですが、私たちが一般に「国」と考える「国民国家」という制度の歴史は、近代の産物で、世界のどこを見ても、せいぜい200年ほどの歴史しかありません。</p> <p>しかし、「国」や「国境」と呼ばれる概念が確立され、「パスポート」や「ヴィザ」が必要になるずっと昔から、人々は、海を渡り、砂漠を横断して移動を続けてきました。人の移動によって、おカネやモノが世界を行き来し、文化は異なる文化と接触し、互いに影響を与えながら変化し、独自のものとして形成されてきました。</p> <p>飛行機が地球を飛び交い、世界のどこへでも、より速く、そしてより安価に移動できるようになった現代、人の移動、物資の移動、資本の移動に加えて、メディアやインターネットによって、大量の情報が国境を越えて移動するようになりました。いわゆるグローバル社会の誕生です。その結果、文化の接触、混淆、変容のスピードや様態も、かつてとは全く違うものになりました。グローバル社会は、かつてない繁栄をもたらす一方で、貧困、環境、人権、紛争などの問題も顕著になっています。この授業では交流する文化が作り出す新しい世界のかたちについて考察します。</p>		<p>なるべく身近な話題を取り上げ、(やや人数の多いクラスですが) 学生全員で考えていくスタイルをとります。理論的や方法論については2年次の「トランスナショナル文化論」で扱います。</p> <p>話題性や受講生のリクエストによって、各週に予定していた話題の順序を入れ替えたり、他の話題と差し替えたりすることもあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 観光と移動 3. 移民・移住労働 4. コロニアリズムとポストコロニアリズム 5. 文化人類学の変化 6. 現代の文化研究 7. ジェンダーとセクシュアリティ 8. 少数民族 9. 差別と偏見 10. 国境を越える 11. 文化のフロー 12. 芸術の変容 13. 社会正義を求めて 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント使用。 参考文献は授業時に指示します。</p>		<p>期末試験によります。 なお、病気など特別な理由がない場合、3回以上欠席した学生は評価の対象外になります。また、遅刻も、特別な理由がない限り、欠席扱いとなります。</p>	

09年度	交流文化概論iii	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期の授業を通じて、国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを理解してもらおう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p> <p>なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらおう。</p>		<p>第1回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス 第2回：国際関係論はなぜ生まれたのか～戦争観の変化 第3回：国際関係はなぜ生まれたのか ～E. H. カークと国際関係論 第4回：国際関係における国家～近代国家から国民国家へ 第5回：国際関係における国家 ～国家の安全と国際関係の安定 第6回：国際関係の分析枠組み～K. ウォルツ 第7回：国際関係の分析枠組み～イラク戦争 第8回：戦争と平和の問題～政治制度としての戦争 第9回：戦争と平和の問題～積極的平和と消極的平和 第10回：戦争と平和の問題～国際関係における秩序 第11回：戦争と平和の問題～国際関係における正義 第12回：国際政治を見る眼～リアリズムとリベラリズム 第13回：国際政治を見る眼～マルキシズム 第14回：まとめ (質疑応答)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する。		不定期に実施するリアクションペーパーの提出 (40%) と定期試験 (60%) による評価。	

09年度	基礎演習 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年生の必修科目で、少人数のクラス指定、ゼミ形式の授業です。「大学で学んでどういうことだろう?」、「大学での授業についていけるだろうか?」など、入学した1年生が共通して持つ疑問に答え、不安を解決していきます。</p> <p>教室ではさまざまなトピックを使ってディスカッションがおこなわれるので、水曜日の9時ぴったりに始まる授業には、欠かさず、遅刻せずに出席し、積極的に議論に参加することが大切です。</p> <p>「基礎演習」の担当教員がクラス・アドヴァイザー（担任）になるので、留学計画や、専門科目の授業の取り方、将来のキャリアなど、何でも、気楽に相談してください。</p> <p>1年生からゼミの気分が味わえて、大学生に必要なリテラシーをきっちり学ぶ、知的な楽しさと有益さに溢れた授業です。</p> <p>なお、初回（4月8日）授業のみ全クラス合同で 5-128 教室で実施しますので注意して下さい。</p>		各担当教員から配布されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員から指示されます。		各担当教員から指示されます。	

09年度	基礎演習 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「基礎演習 I」の継続です。多様なトピックをグループ、もしくは個人で研究して、それらをクラスメートの前で発表し、さらにそれについて討論することを通じて、大学での勉強への取り組み方を身につけていきます。調査の方法、文献検索の仕方からコンピューターを使ったプレゼンテーションまで、クラス担任の教員が丁寧に指導します。</p>		各担当教員から配布されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員から指示されます。		各担当教員から指示されます。	

09年度	英語圏の文学と文化概論	担当者	前沢 浩子・片山 亜紀 原 成吉・上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも「間大西洋地域」を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。14回の講義を通して、文学表現のおもしろさを味わうとともに、文学・文化と政治・社会との複雑な関係にも気づいてほしい。</p> <p>4名の教員で担当し、各担当教員は専門とする地域とトピックについて講義を行う。授業で扱う地域は、イギリス連合王国、アメリカ合衆国、カリブ諸地域が中心となるが、その他の英語圏にも目配りしつつ進めたい。(第1回～3回、前沢。第4回～7回、片山。第8回～10回、原。第11回～14回、上野。)</p>		<p>第1回：ユニオンジャックとシェイクスピア 第2回：18世紀の市民社会とジャーナリズム 第3回：フランス革命とイギリス・ロマン派 第4回：フランケンシュタインとはだれか 第5回：ジェイン・オースティンの世界 第6回：ヴィクトリア時代の子どもたち 第7回：教養小説の変容 第8回：デモクラシーとホイットマン 第9回：冷戦とビート文学 第10回：ヴェトナム戦争とロックミュージック 第11回：西欧史の背中の臍＝カリブと英語圏のひろがり 第12回：言葉を持たぬ「キャラバン」から文学の豊穡まで 第13回：ディアスポラの世界地図・言葉という故郷 第14回：ユニオンジャックに「黒」はない？</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。		定期試験による。詳細は開講時に説明する。	

09年度	英語圏の文学と文化概論	担当者	前沢 浩子・片山 亜紀 島田 啓一・上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも「間大西洋地域」を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。14回の講義を通して、文学表現のおもしろさを味わうとともに、文学・文化と政治・社会との複雑な関係にも気づいてほしい。</p> <p>4名の教員で担当し、各担当教員は専門とする地域とトピックについて講義を行う。授業で扱う地域は、イギリス連合王国、アメリカ合衆国、カリブ諸地域が中心となるが、その他の英語圏にも目配りしつつ進めたい。(第1回～3回、前沢。第4回～7回、片山。第8回～10回、島田。第11回～14回、上野。)</p>		<p>第1回：ユニオンジャックとシェイクスピア 第2回：18世紀の市民社会とジャーナリズム 第3回：フランス革命とイギリス・ロマン派 第4回：フランケンシュタインとはだれか 第5回：ジェイン・オースティンの世界 第6回：ヴィクトリア時代の子どもたち 第7回：教養小説の変容 第8回：ピューリタンの宗教と社会 第9回：アメリカン・ルネッサンスを読む 第10回：アメリカのユダヤ人文学 第11回：西欧史の背中の臍＝カリブと英語圏のひろがり 第12回：言葉を持たぬ「キャラバン」から文学の豊穡まで 第13回：ディアスポラの世界地図・言葉という故郷 第14回：ユニオンジャックに「黒」はない？</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。		定期試験による。詳細は開講時に説明する。	

09年度	英語の世界 I	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標]</p> <p>英語学(English linguistics)の学問研究から得られた英語についての知見を紹介することを通じ、高校時代までに習ってきた英語の知識(単語の意味・イントネーション・語法・構文)のうちで間違っ習った点を正しながら、さらに一歩掘り下げ、正しい知識であっても、なぜそのように言えて別の言い方ができないのかということを中心に解説する。したがってこの講義を受講すると、例えば、高校時代に楽器には定冠詞を付けて play the guitar と言わなければならないと教わるが、冠詞を付けなくとも、あるいは a と the のどちらを付けてもよく、ただ単にギターという楽器にたいする意味づけの仕方が異なるだけであるということがわかるようになる。</p> <p>[概要]</p> <p>右の授業計画に沿い、高校時代までに学習してきた英語の知識にたいし、「どうしてそうは言えてもこうは言えないのか？」という素朴な疑問に対し、英語学(English linguistics)の観点からの説明を試みる。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：不定冠詞付き名詞は何を意味するか？</p> <p>第3回：定冠詞付き名詞は何を意味するか？</p> <p>第4回：数えられる名詞と数えられない名詞</p> <p>第5回：時制と相(現在時制と過去時制・進行相)</p> <p>第6回：時制と相(完了相)</p> <p>第7回：モダリティ(命題態度表現)</p> <p>第8回：モダリティ(発話態度表現)</p> <p>第9回：動詞の意味と構文(自他の交替)</p> <p>第10回：動詞の意味と構文(構文交替のメカニズムを探る)</p> <p>第11回：存在を表す構文(There構文、はだか存在文、提示文)</p> <p>第12回：否定の意味(文否定と構成素否定・二重否定)</p> <p>第13回：否定の意味(部分否定と全体否定)</p> <p>第14回：否定の意味 (much・any/some・few/a few/several)</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。</p> <p>参考書：授業中に適宜紹介する。</p>		課題と小テストおよび定期試験で決める。	

09年度	Listening & Speaking	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p>[概要] ・英語の母音・子音を学ぶ。特に日本語にないものや別の音で代用しがちな音を理解し、その聴覚印象と調音方法を習得する。 ・音の連結による変化を学ぶ。主に、単音の連続による同化や脱落などの音変化を理解・習得する。 ・語のアクセントを理解・習得し、さらに、強音節での子音強化や弱音節での母音弱化など、音節の強弱に付随する母音・子音の特徴を学習する。 ・句や文の中の強弱のリズムおよび平叙文、否定文、疑問文などの基本的イントネーションを理解・習得する。</p>		各担当教員が開講時に提示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

09年度	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] TOEFL® や TOEIC® のテストで日本人のいちばんの弱点が聴き取り能力高めること。</p> <p>[概要] 聴き取り能力でを高めるにはただ単に繰り返し英語を聴いていけば良いというものではない。まとまった文章を聴いて理解する力を伸ばすには、「Listening & Speaking」の授業を通じて学ぶ英語の音声学的特徴の聴き取り訓練をするだけでなく、実は、語彙を増やし、語法・文法あるいは構文にたいする知識を豊富に身につけることも大事なことである。この授業では、英語の聴解力を独立した1つの技能とは見なさず、いわゆる4技能は密接に関連し合っているという考えに基づいて総合的に英語の聴解力を伸ばす訓練をしていく。 (https://www.seibido.co.jp/linguaporta/参照)を教室外の学習教材として採用する。</p>		各担当教員が開講時に提示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『The TOEIC® Test Practice with Core Vocabulary Book 2』と、PC や携帯で学習できる成美堂のリンガポルタ。		各担当教員が開講時に説明する。	

09年度	Grammar for TOEFL® & TOEIC® I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英文法の知識を身につけてもらうことである。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語という言語の規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたい。<下へ続く></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在と過去のコト 2. 未来のコト 3. 動詞で語るコト 4. 続き 5. 話し手の態度の表現（助動詞） 6. 続き（助動詞の過去形、副詞・形容詞） 7. 続き（助動詞の関連表現） 8. 表に出ない行為者（能動文と受動文） 9. 続き 10. HAVE, BE, ING のちから 11. 続き 12. 動詞の共演者と構文タイプ 13. 続き 14. 続き 	
テキスト、参考文献		評価方法	
田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法 文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会 ¥1100		定期試験と課題とオンライン学習の成果、および授業における参加度による。	

09年度	Grammar for TOEFL® & TOEIC® II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><上からの続き> 表現する主体（話し手もしくは書き手）と文法とはけして無関係ではないという立場から、表現主体を中心に英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界を以下に表現するかという観点からも英文法を見る。そして、「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」には意味的な動機付け（semantic motivation）がある。したがって、文法は「なぜそうなのか」という間にたいしてかなりの程度説明することができということになる。そうなるかつまり、英文法は納得しながら学ぶことができ、「現在完了形と過去形の違いは何か」「a と the の違いは何か」とか、同じコトを表すのに'I'm standing on/in the street.'の使い分けができるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 形容詞を中心とした構文 2. 動詞の文法の総括 3. モノ（名詞）の文法 4. 続き 5. 修飾語とその配列順 6. あとから言い足していく語り方（後置修飾） 7. 続き 8. 代名詞と指示詞、そして名詞節 9. 続き 10. 副詞で状況を語る 11. 続き 12. さまざまな副詞表現 13. 仮想の状況を設定する 14. 情報の接続と論理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春・秋学期ともに、朝日出版社のオンライン教材（u=CAT）を教室外の学習補助教材として使用します。したがって、キーボードとパソコン操作のすることが必要である。		定期試験と課題とオンライン学習の成果、および授業における参加度による。	

09年度	Reading Strategies I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目標】 英語の語彙を増やしながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。</p> <p>【概要】 読解技能には、語彙を増やすだけでなく、文脈や言葉の形に現れている情報を利用して知らない単語の意味を推測する力や、単語の連語などの用法にたいする知識、さらに previewing and predicting、recognizing patterns in paragraphs、recognizing patterns of text organization などが含まれる。</p>		各担当教員が最初の授業で提示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が説明する。	

09年度	Reading Strategies II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目標】 「Reading Strategies I」に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。「Reading Strategies I」で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。</p> <p>【概要】 「Reading Strategies I」で習得した読解技能に加え、文章としてはっきりとは書かれていないが、そこに含まれる内容を推測する技能や、文章を構成している各パラグラフで、何がもっとも重要なトピック(主題)なのかを読み取り、それが文章全体の構成のなかでどのような位置づけになっているかを把握する技能の習得を目指す。</p>		各担当教員が最初の授業で提示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が説明する。	

09年度	Writing Strategies I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a required, one-semester-long course in which 1st-year students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and before moving on to introductory academic writing. Accuracy is the main focus. However, students should be provided with some free writing exercises where they can practice fluency at the same time.</p> <p>The objectives of this class are to help students</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to write grammatical sentences. 2. to increase their awareness of common grammatical problems in writing made by EFL students. 3. to introduce self-help strategies so that students can analyze their problems and revise their writing. 		The schedule will be given in the first class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced on the first day of class.		The criteria-related grading scheme will be announced in the first class.	

09年度	Writing Strategies II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this required, one-term long course, 1st-year students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p>The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph. 2. To teach the various patterns of paragraph organization. 3. To help students write clear and focused structures. 4. To help students analyze their problems and revise their writing. 		The schedule will be given in the first class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced in the first class.		The criteria-related grading scheme will be explained on the first day of class.	

09年度	Comprehensive English I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This required course for 1st-year students develops the range of English language skills (but with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>The following are the macro-level goal of this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate (speak, listen, read and write). 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. 		The schedule will be given in the first class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced on the first day of class.		The criteria-related grading scheme will be announced in the first class.	

09年度	Comprehensive English II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This required course helps 1st-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>The following are the macro-level objectives:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in front of a group. 		The schedule will be given in the first class.	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced on the first day of class.		The criteria-related grading scheme will be explained on the first day of class.	

09年度	E-learning I	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 英語学科1年 Group A と交流文化学科の学生を対象とする。Reading Strategies, Writing Strategies などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと 2週目は PC 教室で教材に実際にアクセスしてもらうので、大学のネットワークへのログインパスワードが分かるようにしておくこと 通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし、自律学習を進める 3週目以降隔週に対面授業を行うので指定教室に集合すること 自律学習が捗々しくない場合は、特別対面授業を行う。メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること 内容は、主に語彙学習とライティング 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会 2. PC ガイダンス, Criterion (1) 3. 自習+Criterion (2) 4. Criterion (3), ガイダンス, 単語テスト(1) 5. 自習+Criterion (4) 6. Criterion (5), ガイダンス, 単語テスト(2) 7. 自習+Criterion (6) 8. Criterion (7), ガイダンス, 単語テスト(3) 9. 自習+Criterion (8) 10. Criterion (9), ガイダンス, 単語テスト(中間まとめ) 11. 自習+Criterion (10) 12. Criterion (11), ガイダンス, 単語テスト(4) 13. 自習+Criterion (12) 14. Criterion (13), ガイダンス, 単語テスト(5) 定期試験 (全範囲) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン教材 (ALC と Criterion)		日々のオンライン学習の履歴, 対面授業への出席, 7回のテストの得点を総合的に評価する	

09年度	E-learning II	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] 英語学科1年 Group A と交流文化学科の学生を対象とする。Reading Strategies, Writing Strategies などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1週目の説明会で、オンラインで提出するエッセイ (Criterion)に関する追加課題の説明をするので必ず出席すること 通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし、自律学習を進める 隔週に対面授業を行うので指定教室に集合する 自律学習が捗々しくない場合は、特別対面授業を行う。メールや掲示板等で対象者の呼び出しを行うので注意すること 内容は、主に語彙学習とライティング 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会, Criterion (1) 2. PC ガイダンス, Criterion (1) peer feedback 3. 自習+Criterion (2) 4. Criterion (3), ガイダンス, 単語テスト(1) 5. 自習+Criterion (4) 6. Criterion (5), ガイダンス, 単語テスト(2) 7. 自習+Criterion (6) 8. Criterion (7), ガイダンス, 単語テスト(3) 9. 自習+Criterion (8) 10. Criterion (9), ガイダンス, 単語テスト(中間まとめ) 11. 自習+Criterion (10) 12. Criterion (11), ガイダンス, 単語テスト(4) 13. 自習+Criterion (12) 14. Criterion (13), ガイダンス, 単語テスト(5) 定期試験 (全範囲) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン教材 (ALC と Criterion)		日々のオンライン学習の履歴, 対面授業への出席, 7回のテストの得点を総合的に評価する	

09年度	ドイツ語 (Ia 総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lektion 1 人と知り合う-1 Kontakte 1 2. Lektion 2 人と知り合う-2 Kontakte 2 3. Lektion 3 専攻と言語 Studium und Sprachen 4. 小テスト 5. Lektion 4 趣味 Hobbys 6. Lektion 5 食事 Essen und Trinken 7. Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe 8. Lektion 7 持ち物 Gegenstände 9. Lektion 8 住居 Wohnen 10. Lektion 9 時刻と日付 Uhrzeit und Datum 11. 小テスト 12. Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende 13. Lektion 11 街と大学 Stadt und Universität 14. Lektion 12 休暇の前 Vor den Ferien 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver : 『CD付・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社)		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度	ドイツ語 (Ib 総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。秋学期では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lektion 1 Reise und Verkehr 旅行と交通 2. Lektion 2 Im Restaurant und im Hotel レストランとホテルで 3. Lektion 3 In der Stadt 街で 4. 小テスト 5. Lektion 4 Wetter 天気 6. Lektion 5 Krankheiten und Körperpflege 病気と体の手入れ 7. Lektion 6 Geschenke und Einladungen 贈り物と招待 8. Lektion 7 Personenbeschreibung 人物描写 9. Lektion 8 Müll und Umwelt ゴミと環境 10. Lektion 9 Verbote und Gebote 禁止と命令 11. 小テスト 12. Lektion 10 Lebenslauf und Schulsystem 履歴と学校制度 13. Lektion 11 Feste und Feiertage 祝祭と祝日 14. Lektion 12 Jahresende und -anfang 年末年始 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver : 『CD付・スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社)		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度	ドイツ語 (Ia 総合2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lektion 1 人と知り合う-1 Kontakte 1 2. Lektion 2 人と知り合う-2 Kontakte 2 3. Lektion 3 専攻と言語 Studium und Sprachen 4. Lektion 4 趣味 Hobbys 5. Lektion 5 食事 Essen und Trinken 6. Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe 7. 小テスト 8. Lektion 7 持ち物 Gegenstände 9. Lektion 8 住居 Wohnen 10. Lektion 9 時刻と日付 Uhrzeit und Datum 11. Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende 12. Lektion 11 街と大学 Stadt und Universität 13. Lektion 12 休暇の前 Vor den Ferien 14. 小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤、下田、Papentin, Oldehaver : 『CD付・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社)</p>		<p>小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p>	

09年度	ドイツ語 (Ib 総合2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。秋学期では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lektion 1 Reise und Verkehr 旅行と交通 2. Lektion 2 Im Restaurant und im Hotel レストランとホテルで 3. Lektion 3 In der Stadt 街で 4. Lektion 4 Wetter 天気 5. Lektion 5 Krankheiten und Körperpflege 病気と体の手入れ 6. Lektion 6 Geschenke und Einladungen 贈り物と招待 7. 小テスト 8. Lektion 7 Personenbeschreibung 人物描写 9. Lektion 8 Müll und Umwelt ゴミと環境 10. Lektion 9 Verbote und Gebote 禁止と命令 11. Lektion 10 Lebenslauf und Schulsystem 履歴と学校制度 12. Lektion 11 Feste und Feiertage 祝祭と祝日 13. Lektion 12 Jahresende und -anfang 年末年始 14. 小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤、下田、Papentin, Oldehaver : 『CD付・スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社)</p>		<p>小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。</p>	

09年度	ドイツ語 (Ia 総合3)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ドイツ語の4技能「読む」「書く」「聞く」「話す」を総合的に学習し、合わせてドイツ語文化圏に関する基礎知識を習得することを目的とします。</p> <p>春学期に学習する文法事項は「動詞の現在人称変化」から「形容詞の格変化」までとなります。</p> <p>テキストの練習問題は文法内容の基本練習の他に、聞き取り・ディクテーションやペア・ワークなども含まれており、受信型のみではなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な能力が身に付くように指導します。</p> <p>なお、学期の途中で中間試験を行い、期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語のアルファベット 2. ドイツ語の発音 3. Lektion 1 Willkommen! 出会いと自己紹介 4. 同上 5. Lektion 2 Nasas Universität Nasa の大学 6. 同上 7. Lektion 3 Meine Familie 私の家族 8. 同上 9. Lektion 4 Eine Reise nach Dresden ドレスデンへのドライブ 10. 同上 11. 同上 12. Lektion 5 Geniesen wir jeden Sommertag! 夏のような日々を楽しもう! 13. 同上 14. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤和弘・Heike Pinnau・中村俊子著 『新ドイツに行ってみませんか』(郁文堂)		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

09年度	ドイツ語 (Ib 総合3)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ドイツ語の4技能「読む」「書く」「聞く」「話す」を総合的に学習し、合わせてドイツ語文化圏に関する基礎知識を習得することを目的とします。</p> <p>秋学期に学習する文法事項は「動詞の3基本形」から「接続法」までとなります。</p> <p>テキストの練習問題は文法内容の基本練習の他に、聞き取り・ディクテーションやペア・ワークなども含まれており、受信型のみではなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な能力が身に付くように指導します。</p> <p>なお、学期の途中で中間試験を行い、期末試験の出題範囲は中間試験以後の学習内容とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lektion 6 Der Beginn des Wintersemesters 冬学期の始まり 2. 同上 3. Lektion 7 Ein Waldspaziergang 森の散歩—環境問題 4. 同上 5. Lektion 8 Berlin hat viele Gesichter ベルリンの魅力 6. 同上 7. 同上 8. Lektion 9 Auf dem Weihnachtsmarkt クリスマス市にて 9. 同上 10. 同上 11. Lektion 10 Rollenverteilung heute 子育ては誰がする?—子育て支援 12. 同上 13. 同上 14. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤和弘・Heike Pinnau・中村俊子著 『新ドイツに行ってみませんか』(郁文堂)		中間試験、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

09年度	フランス語 (Ia 総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> で、I (総合1) は日本人講師、I (総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>このI (総合1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、発音(1) 2. 発音(2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 13. まとめ 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 : <i>Initial vol.1</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

09年度	フランス語 (Ib 総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> で、I (総合1) は日本人講師、I (総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>このI (総合1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 13. bilan (3) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 : <i>Initial vol.1</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

09年度	フランス語 (Ia 総合2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。</p> <p>フランス語 I (総合1：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、発音(1) 2. 発音(2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 13. まとめ 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教科書： <i>Initial vol.1</i> (Fernand Nathan)</p> <p>辞書・参考書については各担当者より指示がある。</p>		各担当者より指示・説明がある。	

09年度	フランス語 (Ib 総合2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。</p> <p>フランス語 I (総合1：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 13. bilan (3) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教科書： <i>Initial vol.1</i> (Fernand Nathan)</p> <p>辞書・参考書については各担当者より指示がある。</p>		各担当者より指示・説明がある。	

09年度	フランス語 (Ia 応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実用フランス語検定4級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 演習(1) 3. 演習(2) 4. 演習(3) 5. 演習(4) 6. 演習(5) 7. 演習(7) 8. 演習(8) 9. 演習(9) 10. 演習(10) 11. 演習(11) 12. 演習(12) 13. 演習(13) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者より指示がある。		担当者より指示・説明がある。	

09年度	フランス語 (Ib 応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実用フランス語検定4級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 演習(1) 3. 演習(2) 4. 演習(3) 5. 演習(4) 6. 演習(5) 7. 演習(7) 8. 演習(8) 9. 演習(9) 10. 演習(10) 11. 演習(11) 12. 演習(12) 13. 演習(13) 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者より指示がある。		担当者より指示・説明がある。	

09年度	スペイン語 (Ia 総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(総合1, 2) は、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 (Ia 総合2) とのペア授業である。</p>		<p>① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p> <p>また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度	スペイン語 (Ib 総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 (Ib 総合1) は、スペイン語 (Ia 総合1, 2) の継続の授業である。</p> <p>接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(総合1, 2) は、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 (Ib 総合2) とのペア授業である。</p>		<p>① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑨ 点過去と線過去の違い ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑭ 命令表現</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p>		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度	スペイン語 (Ia 総合2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 (Ia 総合2) はスペイン語 (Ia 総合1) とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。</p> <p>受講生は週にスペイン語 (Ia 総合1) と (Ia 総合2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 (Ia 総合1) に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p> <p>また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度	スペイン語 (Ib 総合2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 (Ia 総合2) の継続授業である。</p> <p>スペイン語 (Ib 総合2) はスペイン語 (Ib 総合1) とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。</p> <p>受講生は週にスペイン語 (Ib 総合1) と (Ib 総合2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 (Ib 総合1) に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度	スペイン語 (Ia 会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(会話) では、スペイン語 (Ia 総合 1, 2) での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 (Ia 総合 1, 2) の項目と同じであるが、(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 (Ia 総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度	スペイン語 (Ib 会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 (Ia 会話) の継続の授業である。</p> <p>接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(会話)では、スペイン語 (Ib 総合 1, 2) での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話) の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 (Ib 総合 1, 2) の項目と同じであるが、(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 (Ib 総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度	中国語 (Ia 講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 中国語の基礎力をつける。基本的な構文が分かり、簡単な会話ができ、文レベルの簡単な作文が出来るようになることを目指す。</p> <p>【講義概要】 週3回の授業のうち、この時間は「書く」「読む」— (講読・文法) にやや重きを置く。 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第1回：授業の進め方などについての説明・発音 第2回：第1課 第3回：第2課 第4回：第3課 第5回：復習 第6回：第4課 第7回：第5課 第8回：第6課 第9回：中間考査 第10回：第7課 第11回：第8課 第12回：第9課 第13回：復習 第14回：復習</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『初級中国語 花ばな—改訂版—』 池上貞子 他 朝日出版社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度	中国語 (Ib 講読・文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 中国語の基礎力をつける。基本的な構文が分かり、簡単な会話ができ、文レベルの簡単な作文が出来るようになることを目指す。</p> <p>【講義概要】 週3回の授業のうち、この時間は「書く」「読む」— 講読・文法 にやや重きを置く。 春学期既習の中国語の発音練習から始め、既習の文法事項を適時復習しつつ、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。</p>		<p>第1回：復習 第2回：第10課 第3回：第11課 第4回：第12課 第5回：復習 第6回：第13課 第7回：第14課 第8回：第15課 第9回：中間考査 第11回：第16課 第12回：第17課 第13回：第18課 第14回：復習</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『初級中国語 花ばな—改訂版—』 池上貞子 他 朝日出版社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度	中国語 (Ia 会話 1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語 (Ia 会話 1) と中国語 (Ia 会話 2) とは基本的に同一テキストを用い、同一教員が担当する。したがって週 2 コマの科目と同様に考えてほしい。</p> <p>【講義目的】 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。語学力の 4 分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。</p> <p>【講義概要】 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第 1・2 週：授業の進め方などについての説明、発音</p> <p>第 3 週： 第 1 課</p> <p>第 4 週： 第 2 課</p> <p>第 5 週： 第 3 課</p> <p>第 6 週： 第 4 課</p> <p>第 7 週： 復習</p> <p>第 8 週： 中間試験</p> <p>第 9 週： 第 5 課</p> <p>第 10 週： 第 6 課</p> <p>第 11 週： 第 7 課</p> <p>第 12 週： 第 8 課</p> <p>第 13 週： 第 9 課</p> <p>第 14 週： 復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『たのしい の 中国語 愉快的漢語』金星堂		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度	中国語 (Ib 会話 1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。語学力の 4 分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。</p> <p>【講義概要】 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 “ピンイン”の読み方を徹底する。“ピンイン”の表記法と対応する発音の復習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第 1 週： 発音復習、春学期の既習事項のブラッシュアップ</p> <p>第 2 週： 第 10 課</p> <p>第 3 週： 第 11 課</p> <p>第 4 週： 第 12 課</p> <p>第 5 週： 第 13 課</p> <p>第 6 週： 復習</p> <p>第 7 週： 中間試験</p> <p>第 8 週： 第 14 課</p> <p>第 9 週： 第 15 課</p> <p>第 10 週： 第 16 課</p> <p>第 11 週： 第 17 課</p> <p>第 12 週： 第 18 課</p> <p>第 13 週：《補充課文》</p> <p>第 14 週： 復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『たのしい の 中国語 愉快的漢語』金星堂		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度	中国語 (Ia 会話 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語 (Ia 会話 1) と中国語 (Ia 会話 2) とは基本的に同一テキストを用い、同一教員が担当する。したがって週 2 コマの科目と同様に考えてほしい。</p> <p>【講義目的】 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。</p> <p>【講義概要】 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第1・2週：授業の進め方などについての説明、発音</p> <p>第3週： 第1課</p> <p>第4週： 第2課</p> <p>第5週： 第3課</p> <p>第6週： 第4課</p> <p>第7週： 復習</p> <p>第8週： 中間試験</p> <p>第9週： 第5課</p> <p>第10週： 第6課</p> <p>第11週： 第7課</p> <p>第12週： 第8課</p> <p>第13週： 第9課</p> <p>第14週： 復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『たのしい の 中国語 愉快的漢語』金星堂		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度	中国語 (Ib 会話 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。</p> <p>【講義概要】 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 “ピンイン”の読み方を徹底する。“ピンイン”の表記法と対応する発音の復習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第1週： 発音復習、春学期の既習事項のブラッシュアップ</p> <p>第2週： 第10課</p> <p>第3週： 第11課</p> <p>第4週： 第12課</p> <p>第5週： 第13課</p> <p>第6週： 復習</p> <p>第7週： 中間試験</p> <p>第8週： 第14課</p> <p>第9週： 第15課</p> <p>第10週： 第16課</p> <p>第11週： 第17課</p> <p>第12週： 第18課</p> <p>第13週：《補充課文》</p> <p>第14週： 復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『たのしい の 中国語 愉快的漢語』金星堂		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度	韓国語 (Ia 総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、1～2年次では3コマで、そのうち2コマを読解や作文等の総合的な学習に、1コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハンゲルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：韓国語について 2. 基本母音（1） 3. 基本子音（1） 4. 複合母音（1） 5. パッチム（1） 6. 発音の変化（1） 7. 私は浅井ゆかりです（1） 8. 出身はソウルですか（1） 9. 図書館ではありません（1） 10. 時間がありますか（1） 11. インターネットをします（1） 12. 貿易会社で働いています（1） 13. 東大門市場に行きます（1） 14. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『基礎から学ぶ韓国語講座初級』、木内明著、国書刊行会		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

09年度	韓国語 Ib (総合1)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、1～2年次では3コマで、そのうち2コマを読解や作文等の総合的な学習に、1コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハンゲルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. しょっちゅうスーパーで買います（1） 2. それは一万ウォンです（1） 3. 今、何時ですか（1） 4. 日本語を話されますか（1） 5. そんなに遠くありません（1） 6. いつ韓国に来ましたか（1） 7. 民俗村に一緒に行きましょう（1） 8. パーティーの準備をしています（1） 9. 何も食べられませんでした（1） 10. 陶磁器を見たいです（1） 11. 写真を撮ってもいいですか（1） 12. もう行かなければなりませんか（1） 13. 手紙を書きますよ（1） 14. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『基礎から学ぶ韓国語講座初級』、木内明著、国書刊行会		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

09年度	韓国語 (Ia 総合2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、1～2年次では3コマで、そのうち2コマを読解や作文等の総合的な学習に、1コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。</p> <p>本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハンゲルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：韓国語について 2. 基本母音（2） 3. 基本子音（2） 4. 複合母音（2） 5. パッチム（2） 6. 発音の変化（2） 7. 私は浅井ゆかりです（2） 8. 出身はソウルですか（2） 9. 図書館ではありません（2） 10. 時間がありますか（2） 11. インターネットをします（2） 12. 貿易会社で働いています（2） 13. 東大門市場に行きます（2） 14. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会</p>		<p>原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。</p>	

09年度	韓国語 (Ib 総合2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、1～2年次では3コマで、そのうち2コマを読解や作文等の総合的な学習に、1コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。</p> <p>本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハンゲルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. しょっちゅうスーパーで買います（2） 2. それは一万ウォンです（2） 3. 今、何時ですか（2） 4. 日本語を話されますか（2） 5. そんなに遠くありません（2） 6. いつ韓国に来ましたか（2） 7. 民俗村に一緒に行きましょう（2） 8. パーティーの準備をしています（2） 9. 何も食べられませんでした（2） 10. 陶磁器を見たいです（2） 11. 写真を撮ってもいいですか（2） 12. もう行かなければなりませんか（2） 13. 手紙を書きますよ（2） 14. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会</p>		<p>原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。</p>	

09年度	韓国語 (Ia 応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の基本的な文法事項を習得し、簡単な日常会話ができるような力を身に付けていく。</p> <p>さまざまな会話文にふれることによって、ハングルの楽しさを知っていく。</p>		<p>1～3回 ハングルのしくみ</p> <p>4、5回 自己紹介</p> <p>6、7回 いろいろな質問①これは何ですか？</p> <p>8、9回 いろいろな質問②この方はどなたですか？</p> <p>10、11回 いろいろな質問③学校はどこにありますか？</p> <p>12、13回 いろいろな質問④何をしていますか？</p> <p>14回 否定</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>李昌圭『韓国語を学ぼう 初級』</p> <p>李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 初級』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度	韓国語 (Ib 応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の基本的な文法事項を習得し、簡単な日常会話ができるような力を身に付けていく。</p> <p>さまざまな会話文にふれることによって、ハングルの楽しさを知っていく。</p>		<p>1、2回 春学期の復習</p> <p>3、4回 ㄷ脱落：どこに行きますか？</p> <p>5、6回 過去形：きのう何をしましたか？</p> <p>7、8回 固有数詞、漢数詞：試験はいつですか？</p> <p>9、10回 固有数詞、漢数詞：いま何時ですか？</p> <p>11、12回 固有数詞、漢数詞：いくらですか？</p> <p>13、14回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>李昌圭『韓国語を学ぼう 初級』</p> <p>李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 初級』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度	総合講座（音楽とことば・文学①）	担当者	コーディネーター 木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。</p> <p>この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料、生演奏等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。</p> <p>注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハの《マタイ受難曲》における音楽とことば〉 2. 前沢浩子（本学英語学科准教授）〈シェイクスピアと音楽〉 3. 佐藤亜紀子（リユート奏者、東京芸術大学教育研究助手）〈リユート音楽（レクチャーコンサート）〉 4. 佐野康子（本学英語学科専任講師）〈多様なアフリカの人と文化〉 5. 渡部重美（本学ドイツ語学科教授）〈詩を読むための作法～韻律論入門～〉 6. 下川浩（本学ドイツ語学科教授）〈ドイツ歌曲〉 7. 高橋雄一郎（本学交流文化学科教授）〈ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（1）〉 8. 高橋雄一郎（ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（2）） 9. 松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈象徴主義の詩と歌曲〉 10. 若森栄樹（本学フランス語学科教授）〈フランスのシャンソンにおける言葉と音楽〉 11. 原成吉（本学英語学科教授）〈Poetry in Music —Ballad tradition & Bob Dylan〉 12. 原成吉（Music in Poetry —Poetry Performance of Gary Snyder） 13. 前原恵美（有明教育芸術短期大学専任講師）〈歌舞伎における音楽描写について〉 14. 木村佐千子（標題音楽について）〈まとめ〉 <p>※内容や担当者は変更となる場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

09年度	総合講座（音楽とことば・文学②）	担当者	コーディネーター 木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。</p> <p>この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。</p> <p>注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハのカンタータにおける音楽とことば〉 2. 児嶋一男（本学英語学科教授）〈O'Conner の“Famine”から映画 <i>Once</i> まで ——U2 やエンヤの国の様変わり〉 3. 上野直子（本学英語学科教授）〈レゲエの根っこと根無しのカリブ〉 4. 上野直子（ラサの Bob・東京の“Redemption Song”） 5. 森立子（日本大学非常勤講師）〈フランスのパロック・オペラ〉 6. 松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈オペラにおける人間表現〉 7. 谷口亜沙子（本学フランス語学科専任講師）〈「カルメン」をめぐって〉 8. 諏訪功（元本学ドイツ語学科特任教授、一橋大学名誉教授）〈「音楽とことば」。音楽とことばに共通する線的性質〉 9. 近藤静乃（東京芸術大学非常勤講師）〈現代における「声」の魅力——日本伝統音楽の源流として〉 10. 工藤達也（本学ドイツ語学科准教授）〈生命と神話——クラゲスの『リズムの本質』を中心に〉 11. 木村佐千子（ルター派のコラール ～クリスマス音楽を中心に～） 12. 山本淳（本学ドイツ語学科教授）〈「詩」としてのドイツ・ポップス〉 13. 園田みどり（本学全学共通カリキュラム非常勤講師）〈イタリア語の韻律と音楽のかかわりについて〉 14. 木村佐千子（交響詩について）〈まとめ〉 <p>※内容や担当者は変更となる場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

09年度	総合講座（EUの歴史と現状1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的な前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2~4. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 5~7. 第2次大戦・戦後復興と欧州統合 8~9. EUの制度的起源(1)：ECSCの成立 10~11. EUの制度的起源(2)：EECの成立 12~13. EECの定着期 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）</p>	

09年度	総合講座（EUの歴史と現状2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EUの歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2~4. 通貨統合 5~6. マーストリヒト条約以降のEU 7~8. EUの制度 9~10. EUの諸政策 11. 加盟国とEU 12~13. EU域外との関係 14. まとめ：EUの現在の課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）</p>	

09年度	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

09年度	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論 (情報処理演習) [英語] [ヨーロッパ言語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

09年度	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件・概要：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

09年度	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[総合][ヨーロッパ言語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[総合][英語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

09年度	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことの人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

09年度	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために) (HTML 応用 1)」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論 (HTML 中級)」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む)</u>を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u></p> <p>平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p> <p>履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために) (HTML 応用 1)」のいずれかを履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。</p> <p>参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過を含む) で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。</p> <p>最低限のルールやマナー (禁飲食等) を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

09年度	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場の理論① 9. 市場の理論② 10. 厚生経済学の基本定理 11. 不完全競争市場① 12. 不完全競争市場② 13. 市場の失敗 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

09年度	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析① 9. IS-LM 分析② 10. インフレとデフレ 11. 政府債務と財政赤字 12. 経済成長論 13. 開放マクロ経済 14. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	